



“ガス窯作りのプロ集団・株大築窯炉工業”の

陶芸家と窯屋を結ぶ超アナログ情報誌

2008・7月号

月刊 窯ナビ

必ず良いことがある人のために送る！

DAICHIKUのお得意様向けニュースレター

【発行日】2008年7月30日 【発行人】株式会社大築窯炉工業 谷口浩司

〒309-1611 茨城県笠間市笠間2192-5 TEL0296-72-1444 【ホームページ】<http://www.daichiku.jp/>

ウラ面も情報満載

■ポルトガルで見たやきものと窯



■1階が細工場と窯場、2回が展示室になっている工房



■直炎式の窯↑土練機↓



■2005年6月、ポルトガルを旅行しました。訪ねた町のなかにレドンドという陶芸の村がありました。このレドンド(Redondo)で作られているやきものは、主に絵皿や小鉢、水差しです。工房の入口には絵皿や自慢の作品がディスプレイしたあり、すぐにここは「やきもの屋」だなと気がつきました。特に目立ったのは絵皿で、直径18cm位のものから30cm位のものでした。作り方は、赤土で成形したものに白化粧をかけて、掻き落し透明釉をかけたものや、赤土+白化粧に絵の具で素朴な絵柄を描いたものです。焼成温度は1,000℃位です。■窯はどうかというと、訪ねた工房4軒のうち2軒が電気窯だけで焼いており、1軒がガス窯と電気窯、もう1件が直炎式の薪窯と電気窯がありました。■最初に見たのは直炎式の薪窯で、「えっ？こんなので焼いてるの？これじゃ温度が上がらないのでは？」と率直に感じました。窯の廻りには廃材が散乱していて、その窯はススだらけ。でも窯主のおじさんは妙に陽気で、窯を指差して話したり、大きな素焼きの水がめのようなものをせせとトラックに載せていました。工房の奥に入ってゆくと、青い電気窯と粘土まみれの土練機を見つけました。電気窯は日本では8~10kw位のものでした。こんな色に窯を塗ってしまうという美意識は日本人には無いなあ、と青い窯を見て思いました。土練機は2軸の常圧式で1段落としてあり、平ベルトでモーターと繋がっていて、いかにも手作り臭のする製品でした。■2軒目も電気窯が2基ありました。近づいて見てみると、なんと日本のデジタル温度調節計(シマデン社製)が窯に付いていました。自社でも一時購入していましたので“まさかこんなところで見られるとは”と感動と懐かしさを感じました。■3軒目には1m³位の台車式ガス窯が2基ありました。どうやらここはガス窯がメインのようでした。工房の中を見せようと、今度は何とシンボの電動ロクロが！再び日本製を発見した私は、通訳をしてくれた日本人T氏に「これ日本のだよ！」と話しましたが、彼はクールでした。■4軒目の工房はやはり電気窯が2基ありました。扉だけ緑色の窯とグレー一色の窯でした。この工房の主人は私が日本人だと言うと、湯飲みに差してあるたくさんの筆の中から1本取り出し、「これは日本の筆で、とても使いやすいんだが、1本しかないから使えない。」と言っていました。■このレドンドという村には工房が10件あるようです。訪問した4軒の工房のうち3軒にどれも同じくらいの電気窯がありました。還元装置は見ることはありませんでした。また作品は酸化雰囲気为主のようです。ポルトガルの電気は220V/50Hzで供給されています。

■日本の温度計が付いた電気窯



■緑色の電気窯



■ガス窯・電気窯/ダイチクの貸し窯■

- ガス窯0.4m³・・・本焼き18,000円・素焼き7,000円
- ガス窯0.1m³・・・本焼き8,000円・素焼き4,000円
- 電気窯8kw・・・本焼き5,000円・素焼き3,000円
- ※初回焼成指導料(任意)・・・5,000円
- ・使用期間中はポットミルの使用は無料
- ・電子レンジ・仮眠室あり(無料)

お申込みは、直接または0296-72-1444(金沢)まで

ユーザーさんの個展・展示会の情報募集

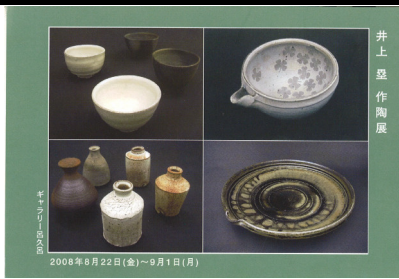
■当社ではユーザーの個展・展示会の情報を募集しています。ダイレクトメール(DM)などの案内書ができましたら、弊社までお送りください。当ニュースレター「月刊・窯ナビ」やホームページ上でご紹介させていただきます。グループ展や小さなイベントでもOKです。どしどしお寄せください。費用は一切かかりません。

■ユーザーさんの個展情報■



青柳憲儀 作陶展

2008年8月2日(土)～8月15日(金)
回廊ギャラリー門
笠間市笠間2230-1
0296-71-1507



井上壘 作陶展

2008年8月22日(金)～9月1日(月)
ギャラリー久呂
千葉市中央区中央3-4-10
043-224-5251



真木未波 作陶展

2008年8月16日(土)～8月29日(金)
回廊ギャラリー門
笠間市笠間2230-1
0296-71-1507

■お客様に学ぶ今月の格言！特集■

「今まで見たこともないやきものをつくりたい！」(愛知県・原田省平氏のことば、13窯)

■いつも新しいものに挑戦し続けようとする気持ちを表していると、強く感じる言葉です。シンプルな表現の中にもやきものに対する情熱がひしひしと出ています。守りに入らず、常に攻めの姿勢でいるスピリットを感じます。

「日々愛着が増すようなやきものをつくりたい！」(益子町・西村俊氏のことば、15窯)

■「モノ半分、人半分」などといったります。使うだけならジャッキン(百円均一)の品物でも十分です。思いが込められたやきもの、誰がつくったやきものかが分かるからこそ、それを手に入れた人は愛着が湧くのだ、と感じます。つくったものは嘘をつかない。「ものづくりは人づくり」などと言ったりします。良いものをつくるためにはまず自分を戒めなければなりません。ものづくりに悪い人はいません。

「美的感覚をみがく努力をしていきたい！」(笠間市・大野佳典氏のことば、16窯)

■行動の原点は好奇心と感動にあるといいます。美的感覚をみがいて、言葉に言い表せない感動をやきものとして表現できたら素晴らしい。ということが大野氏は師を通じて知ったのでしょう。

「楽しんでいただければうれしいです」(さとうゆき氏のことば、17窯)

楽しいと思うことが行動の原点、身近な人々と一緒に同じ目線で楽しむことがうれしい！楽しくなければ物事は続けられない、喜んでもらえなければやる意味が無い。

「人は鏡、万象我師」(日立市・澤幡浩一氏のことば、12窯)

■長年会社を経営されてきた澤幡氏の座右の銘です。「人の非に対してはまず自分を改めよ、あらゆることが良いことを教えてくれている」。例え知ってはいてもなかなか実行できるものではありません。すぐに世の中や人のセイにしてしまう、そんな風潮が犯罪を生んでいると言っても過言ではないでしょう。教えてもらうという気持ちさえあれば、すべてが自分の師匠なのです。

■トピックス■つくば陶芸教室開校 講師・池本周氏

つくば 陶芸教室

初心者大歓迎!!

講師陶歴 池本周

1997～2003
茨城県工業技術センター
窯業指導所 勤務後、
桜川市に窯窯・独立。
途絶えていた「堆花」
技法の復元・発展に着手。

■初心者からベテランまで気軽に焼き物が楽しめる「つくば陶芸教室」が、このほどつくば市妻木にオープン。7月から開講する各コースの生徒を募集している。■県工業技術センター窯業指導所で若手作家を育成してきた池本周さんが、豊富な経験を基に基本の技法から自由制作まで丁寧に指導。授業は一回2時間半で、同じ日に二回分制作できるコースもある。会費は月4回で1万2000円～2万円(学割あり)。生徒の費用負担を軽減しようと焼成料金はサイズごとに細かく設定している。そのほか体験コースもある。

営業時間/午前9時半～午後9時。月曜、第2・4土曜定休(7月から)

【問い合わせ】

029(828)7270/つくば陶芸教室(つくば市妻木417-5)

URL:<http://www7.plala.or.jp/tokitu555/>

■編集後記「あとかんげん」■

■3ヶ月、半年、1年、3年…というように物事を続けるには節目があります。月刊・窯ナビは今回で20窯。これもひとつの節目といえます。ここまで続けられたのも読者ユーザーの方々から貴重なご意見、ご感想を頂いたから続けられたと考えています。今年の陶炎祭に出かけた際も、「毎月読んでよ」と何回も声を掛けられました。改めて「ありがとうございます」。■この窯ナビは創刊号から6号まではコピーでした。なので手間と費用がたいへんでした。「これはどこまでもつかなあ？」と考えることもありました。6号からは印刷になり、費用はだいぶ圧縮しましたが、そのぶん時間がかかるようになりました。■良く知っているユーザーからは、「毎月出すのはたいへんでしょう。」とか「お金がかかっているんじゃないの。」というように聞くことがあります。その時はこう話します。「私の残業代はタダです。経費は印刷代+送料で1通当り92円です。」とお話します。何百万もする窯を買っていただいたお客様に、1年で1,100円の窯ナビをお送りするのは決して高いものではありません。ガソリン代をかけて営業マンが訪問し、仕事の邪魔をするよりはずっと良いのではないのでしょうか。また好きな時間に読んでもらえるということもあります。■これまで20号(窯ナビでは20窯)発行してきて、「月刊・窯ナビ」を新たに考え直してみました。それは、①大築窯炉の全ユーザーと関係者に送る情報誌です。②毎月1回発行しています。③ユーザーの人となり伝えることでバックアップしたい。④読んだ人が少しでも元気が出るように心掛けています。⑤ガス窯の焚き方ややきものについて伝えたい。⑥その月々に感じた人間味のある話を伝えたい。⑦読みやすい文章を心掛けています。という7つです。最初は特に強い思いや、コンセプトはありませんでした。しかし、続けているうちにこんな形になったというのが正直なところ。■これからも、大築窯炉工業と月刊・窯ナビをよろしく願いいたします。